

第16回宇宙科学・探査部会 議事要旨

1. 日時：平成26年9月30日（火） 16：00－18：30

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

（1）委員

松井部会長、薬師寺部会長代理、家森委員、片岡委員、櫻井委員、下村委員、田近委員、永原委員、山川委員、山崎委員

（2）事務局

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、深井宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

（1）宇宙政策委員会の議事概要等について（報告）

資料1及び参考資料1から4に基づき、事務局から報告があった。

（2）新宇宙基本計画に盛り込むべき事項及び平成27年度概算要求に関する関係府省ヒアリング

[平成27年度概算要求について]

平成27年度概算要求（宇宙科学・探査部会関係）について、資料2に基づき、事務局から説明があった。委員から以下のような意見があった。

○宇宙探査イノベーションハブについて、宇宙予算の外部である科学技術振興機構から資金を獲得することは評価できるが、有人宇宙探査と無人探査とは別の議論が必要なので留意すべき。

[深宇宙探査]

深宇宙探査についてJAXAの常田理事より科学コミュニティの議論の状況について報告があった。委員から以下のような意見があった。

○現在の検討の方向性では産業振興が強調されているが、宇宙科学はビジネスとは直接関係していないのではないかと。

○現状の予算規模を踏まえると国際宇宙探査において、我が国は、まずは無人探査での協力を考えるべきではないかと。

○国民に示すコンセプトが重要である。深宇宙へ行くためには、次世代の人材や産業力が必要で、それが安全保障につながるのではないかと。

○有人活動そのものに価値を見いだせるのか、科学的成果など有人活動によって生み出されるものに価値を見出すのか、という観点も必要。

[国際宇宙ステーション（ＩＳＳ）計画及び有人宇宙探査]

資料３及び４に基づいて文部科学省より説明があった。委員から以下のような意見があった。

- これまでと同じ予算内容に留まるのではなく、次の技術的なチャレンジの発想が必要。
- ＩＳＳの費用対効果は悪いのではないか。２０２０年までの取組については、戦略を持って発展性のあるものにすべきではないか。
- 日本は無人技術に集中すべきではないか。
- 有人技術について、本当は日本の技術者としてもっとやりたい技術的課題があるのではないか。将来の技術的な道筋が見えない。
- そもそもＩＳＳ計画や有人宇宙探査のコンセプトは何か。日本としてこれらを通じて何を獲得すべきか、何を求めようとしているのか、といったビジョンが必要なのではないか。
- 国際宇宙探査については、参加形態、コスト、成果やメリットが明確にならない限り、参加の意思を表明すべきではないのではないか。

以　　上